

地域医療の将来探る

室栄高生、製鉄病院で実習



地域に根差した医療人材育成を目的に、高校生対象の一日医療体験実習が5日、室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院で行われ、室栄高生が将来の西胆振の医療を考えた。

旭川医科大学が取り組む高・大・病連携事業の一環。将来、医療職や関連分野を希望する室栄の1、2年生約30人が参加。このうち9人が2班に分かれた

グループワークで20年後の西胆振の医療をテーマに、現状や将来考えられる課題を議論した。

生徒らは医療従事者の不足、一極集中による地域間格差など地域医療が抱える課題と、根本的な原因を分析。各班で意見をまとめ、グループワークに参加していない生徒ら20人に発表し、近い将来、取り組んでいく可能性

地域医療の現状や将来の課題を考える室栄高生ら

～
のある問題に理解を深めた。

グループワークに参加した奥田隼輔さん(16)は「グループ討議を通じて将来の医療問題が浮かび上がり、考えることができ良かった」と話していた。

(菅原啓)